

折に触れ 四字熟語

NO. 101 『茂林修竹』 もりん しゅうちく

< 意味 > こんもりと茂った林と、長く伸びた竹林のこと。

出典： おうぎし 王羲之 らんていしゅうじよ 「蘭亭集序」
『・・・此の地にすうざんしゅんれい崇山俊嶺、もりんしゅうちく茂林修竹有り・・・』

語 釈： 「修竹」は長く伸びた竹。「修」は「脩」とも書き、おさめる、まなぶ、かざる、物をまとめる、の外に「ながい」という意味もあります。

表 現： 茂林修竹の絶景。

一 言： 松竹梅シリーズ 竹

353年（永和9年）3月3日、王羲之が名士や一族を名勝・蘭亭に招き、総勢42名で曲水の宴を開き、その時に作られた詩27編（蘭亭集）の序文として王羲之が書いたもの（草稿）が蘭亭集序です。

「蘭亭集序」は書を学ぶ人なら誰もが知る行書のお手本になっています。

参照文献： 三省堂・新明解「四字熟語辞典」